

Title	流通業におけるグループ化戦略
Sub Title	
Author	伊藤悦次(Itou, Etsuji) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第253号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0253">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0253</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	伊藤悦次	主査	石田英夫
	(株式会社ダイエー)	副査	奥村昭博
所属ゼミナール	奥村昭博 研		和田充夫

## 流通業におけるグループ化戦略

我国流通業の80年代は、成熟社会の到来を名実ともに証明するかの如く、消費の低迷により、低業績を余儀なくされている。メガトレンドに代表される来るべき高度情報社会への対応の難しさが、流通業の不安をさらに増幅させている。又、このような流通業を取り巻く環境の不確実性に対応すべく異業種間提携を含むグループ化戦略を指向している。

しかしながらグループ化戦略は、企業グループ内部の組織構成部分が、各々に環境に適応すべく多様性の増大すなわち組織の「分化」を要求する。

組織が「分化」したままでは、組織がバラバラで「分解」してしまう。そこで質の高い「統合」の機能が必要となる。それでは、流通業における「統合」を機能させるものは何か、グループ戦略を採る大手流通企業グループには、固有の「統合」を機能させる情報ネットワーク、又「核」になる経営資源が、存在するのではないか。

この「核」になる経営資源を本研究では「ソフトウェアの蓄積」として「分化」と「統合」をバランスさせ又「ルースカップリング」による組織関係論の分析モデルを用いながら、ダイエー・グループ、イトーヨーカドー・グループ、西武流通グループが、如何なるものの蓄積を通じて戦略策定を行っているか明確にする。

その企業別戦略の特徴をふまえながら、各流通企業グループにおけるニューメディア時代へのグループ化戦略のあるべき方向を提言するものである。